



# 共 成

昭島市立共成小学校  
校長 佐伯 孝司  
平成31年4月26日

HP <http://www.city.akishima.ed.jp/~kyosei/>

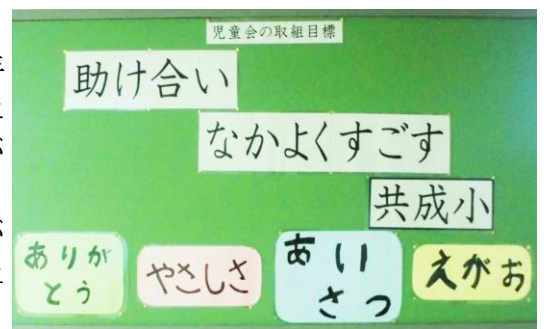
## 美しく心を寄せ合う 共成小

校長 佐伯 孝司

この「令和」には、人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ、という  
意味が込められております。 首相官邸サイト内「新元号の選定について」のページより

平成最後の学校だより「共成」をお届けします。4月1日の早朝、職員室では、新元号が「きょうせい」になったら…というかすかな期待を語っていました。「きょうせい」になったらどうなっていたか…は別として、今が新しい時代を迎える時ととらえ、未来の姿を思い描きながら目標を立て、希望をもつ機会にすることは、意味のあることだと考えます。

右の画像は、代表委員会で決めた児童会の取組目標です。昨年度に引き続いて「助け合い なかよくすごす 共成小」をつくりたい、そのためには「ありがとう」「やさしさ」「あいさつ」「えがお」を生み出し育てていこう、という意味が込められています。この目標を児童と共有し、児童が美しく心を寄せ合う姿、児童が共成小学校のよい校風を生み出し育てようと取り組む姿を、私たち教職員も大切にしていきたいという思いを深めました。



目標を見ると、子供たちは、「和」に価値を見出しているともとらえられます。相手に心を寄せて理解し、自分にできることを考え「助け合い」たい。そして、「なかよく」和を大切にしたい。そのために、4つの姿を考えたと思います。目標を立てたとき、目標達成への道のりをスモールステップで考えていくことを子供たちにも様々な機会に伝えていきます。目標達成までは、「達成していない＝できていない」状態が続きます。目標への道を確認なものにするために、目標へ向かう気持ちを大切にするために、小さな、段階的な目標を設定します。「ここまでできた。次は…」と考えやすくなります。児童会の取組目標に込められた子供たちの思いを代弁するとしたら、このようになるでしょうか。

- ① 助けられた側も、自分の心を、助けてくれた相手の心に寄せて「ありがとう」を伝える。
- ② 自分も相手も、心を大切にしようとして「やさしさ」を行動に表す。
- ③ 相手を認める心を表す第一歩として「あいさつ」を励行する。
- ④ 自分の笑顔が誰かを助け、誰かの笑顔が自分を助けてくれる。「えがお」を見たり見せたりする。

周りで指導・支援する大人も、スモールステップで子供たちの変容をとらえようとすると、成長ぶりをとらえたり、方向修正の助言をしたりしやすくなります。子供たちの小さな変容が見られたと感じたとき、その価値を認める働きかけをすることが大切です。喜んだり、ほめたり、感謝したり、言葉や態度に表して伝えるようにしていきたいものです。

もちろん、子供たちなりに、動機はやさしい気持ちなのにもかかわらず、結果がうまくいかないことも経験します。相手の辛い気持ちに心を寄せ、自分も一緒に辛くなってしまうこともあります。相手に心を寄せたつもりで、よかれと思ってとった言動がうまく通じず、誤解されることもあります。相手の辛さを感じるからこそ、心が揺れ、判断が揺れ、よい言動につながらず、結果的に問題になってしまうこともあると思います。困難に突き当たるのは、「やさしい心」の持ち主であるからなのかもしれません。スモールステップで、動機から結果までの過程を様々な視点からとらえ、話し合うことも大切です。

私たちは、「やさしい心」を受け止め、考えさせる過程で、子供たちが美しく心を寄せ合い、「助け合い なかよくすごす 共成小」を育てていく姿を導き、新しい時代が子供たちにとってよいものになるように、努めていきたいと思っています。

地球は先祖から受け継いでいるのではない、子どもたちから借りたものだ。 (サン=テグジュペリ)